

第5回 浅川ダム施工技術委員会資料

平成25年7月31日

長野県長野建設事務所
浅川改良事務所

目 次

1. 第4回施工技術委員会 意見に対する対応	1
2. 進捗状況	3
2.1 工事の進捗状況	3
2.2 全体工程	4
2.3 現在の状況	5
3. 品質確保・工程管理	6
3.1 施工体制	6
3.2 品質確保・工程管理の実施状況	7
3.3 基礎掘削	10
3.4 本体コンクリートの打設	14
3.5 基礎処理工	61
3.6 CSG地すべり対策工	81
4. 安全対策の実施状況	85
4.1 安全衛生対策の実施状況	85
4.2 交通安全対策の取り組み	93
4.3 法面観測の実施状況	94
5. 環境対策の実施状況	98
5.1 自然環境対策	98
5.2 工事による振動騒音対策	101
5.3 濁水処理	103
5.4 建設副産物処理の実施状況	104

1. 第4回施工技術委員会 意見に対する対応

「第4回浅川ダム施工技術委員会」は、平成24年12月19日（水）に委員全員出席のもと浅川ダム建設工事現場において開催され現地調査（ダム堤体）及び会議が行われた。
委員会の意見に対する対応について、表1.1.1に示す。

表1.1.1 第4回施工技術委員会 意見に対する対応

区分	項目	第4回施工技術委員会での意見 (平成24年12月19日(水))		今回の対応	掲載ページ
			第4回資料 掲載ページ		
1. 資料に関する こと	コンクリート打設	凡例は3月を一番上に上げた方がよい。	P17	リフトスケジュールの凡例を修正しました。	P16
	コンクリート打設工 法	リフトスケジュールでもっと下から拡張レヤ工法で 施工しなかった理由を説明してほしい。	P17	拡張レヤ工法の採用可能時期は24年11月中旬頃からでしたが、夕方以降の気温が氷点下 付近まで冷え込む日もあるため、日中の限られた時間で打設可能なブロック割としました。 (拡張レヤ工法の採用は、片番での打設を考慮して、打設時間が最大で14時間程度となる ように検討しています)	P16
	スランプデータの管 理	スランプデータのチェックを行い、ばらつきの少な い管理を行うこと。 スランプと空気量が関係していると考えられるが、 空気量の制御はどのようになっているのか。 温度・単位水量とスランプの関係がわかるように整 理すること。 管理図を横長とし、日々の変動状況がわかるように 整理すること。	P27~31	<ul style="list-style-type: none"> スランプと空気量、温度の対比が行えるグラフとしています。 空気量は、前月の実績と毎月の骨材管理試験結果をもとにA E剤の添加量を微調整して 空気量の制御を実施しています。 単位水量は表面水率による調整を実施し、一定になるようにしております。試験結果の データを閲覧します。 スランプデータのグラフを横長としました。A3グラフで時間軸を1年から4ヵ月程度 のグラフに修正し、日々の変動が分かるように取り纏めました。 25年3月の打設からスランプの読値を1mm単位として管理しコンクリート週報で提出 をしています。 	P26~43
	強度の管理	中庸熟セメントを使用した際の28日・91日強度 の再整理を行うこと。	P33~34	資料の整理を行いました。	P44~48
	コンソリデーション グラウチング	弱部補強目的の1次孔の単位セメント量についてチ ェックを行うこと。 次数ごとの改良程度の判断、追加孔・チェック孔の 配置等の整理を行うこと。 最終次数孔の取り方について整理すること。	P57	グラウチングの結果について、再度整理を行いました。	P74~78

区分	項目	第4回施工技術委員会での意見 (平成24年12月19日(水))		今回の対応	掲載ページ
			第4回資料 掲載ページ		
1. 資料に関する こと	孔内傾斜計	累積変動図のデータについて、プロットミスがないか確認すること。	P68	・累積変動図を再度確認いたしました。	P96
2. 施工に関する こと	左岸上流沢の処理	左岸上流部の沢からの流水及び流木の処理を検討すること。	—	現在、調査を進めており検討中です。	
	雪崩・落雪への注意	雪崩・落雪に対する注意をすること。作業ルートの点検を十分に行うこと。	—	・雪崩・落雪による危険を防止するため、足場上の積雪を除去いたしました。 (実施状況の写真添付)	P92
	融雪期の対応	融雪期の土石流災害に注意すること。	—	・土石流災害に対する避難訓練を実施いたしました。(実施状況の写真添付)	P87,92
3. その他	週間工程表	監督職員の押印欄を追加すること。	P10	・週間工程表に押印欄を追加いたしました。	P9
	会議中のデータ回覧 について	他ダムの委員会で行っているように、会議中に回覧等を行い、データの提示ができるようにすること。	—	・会議中にデータを回覧します。	—
	データ整理全般	他ダムでの事例を参考に委員会進行が効率よくできるようなデータ整理を行うこと。	—	・他ダムの事例を参考に、より良いデータ整理を行ってまいります。	—

2. 進捗状況

2.1 工事の進捗状況

- ・掘削工 : 基礎掘削は、粗掘削がすべて完了し、仕上げ掘削については EL543.750mまで完了した。
- ・本体コンクリート工 : 本体コンクリートは、全堤体積のうち 75%の 102,600 m³のコンクリートの打設が完了した。
- ・減勢工 : 減勢工のコンクリート打設は、約 9割の 3,700 m³が完了した。
- ・CSG地すべり対策工 : 工事中の河川水を転流させる水路は、平成 23年度に完了している。
- ・基礎処理工 : 遮水性の改良目的のコンソリデーショングラウチングは、河床部の 2つのブロック(5 BL、6 BL)、隣接する左右岸のブロック(3 BL、4 BL、7 BL)が完了している。現在 2 BL、8 BL、9 BLの施工中である。また、7 BLの FV断層周辺における、弱部の補強目的のコンソリデーショングラウチングが完了している。
カーテングラウチングは、河床部の L 1 BLの施工が完了している。

表 2.1.1 概略工事数量進捗率一覧表(平成 25年 7月 25日現在)

工種	細別	単位	設計数量	累計出来高	進捗率(%)
基礎掘削	土石掘削	m ³	177,900	177,900	100
	岩石掘削	m ³	56,640	56,640	100
	計	m ³	234,540	234,540	100
	岩盤面処理	m ²	13,580	10,200	75
堤体工	堤体コンクリート	m ³	136,700	102,600	75
	減勢工コンクリート	m ³	4,300	3,700	86
	計	m ³	141,000	106,300	75
	造成アバット工	m ³	6,100	6,100	100
基礎処理工	コンソリデーショングラウチング	m	2,415	2,350	97
	カーテングラウチング	m	4,605	240	5
	計	m	6,626	2,590	39
CSG地すべり対策工	掘削工	m ³	20,000	0	0
	CSG工	m ³	65,100	0	0

2.3 現在の状況

写真1 上流側から



写真2 右岸側の状況



写真3 左岸側の状況

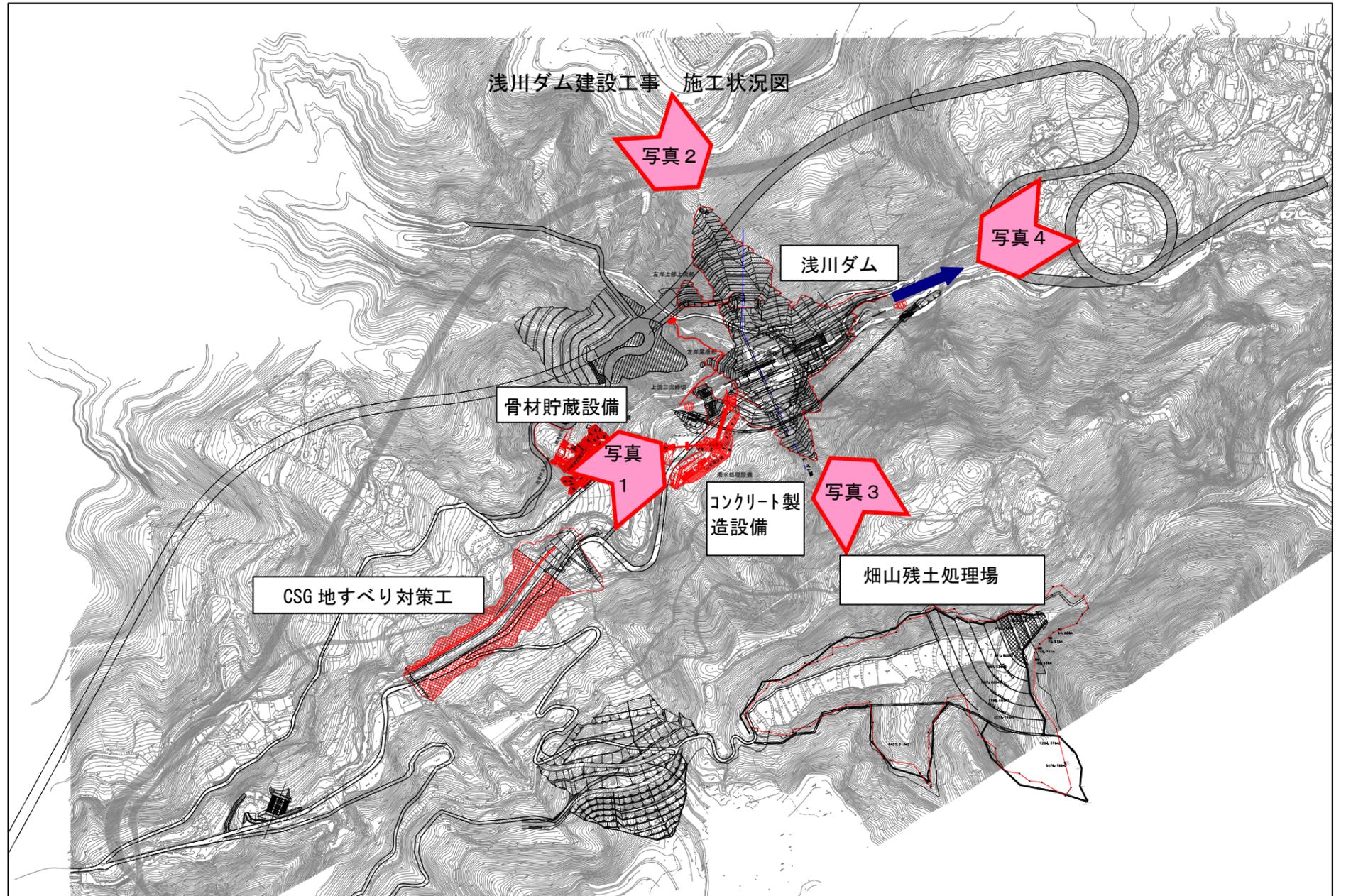


写真4 下流側から



撮影日：平成 25 年 7 月 13 日